

## 第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

### 応募者に関する情報

記入日：2012年 11月 x x日

応募者情報	
応募 団体名	(フリガナ) ※こちらにフリガナをお願いします トウキョウトシダクイカクドモキョウガクコウ・コウトウガクコウ
	(団体名) 東京都市大学等々力中学校・高等学校 ●関連団体 ■東京都市大学環境情報学部 伊坪研究室 <a href="http://www.yc.tcu.ac.jp/~itsubo-lab/">http://www.yc.tcu.ac.jp/~itsubo-lab/</a> ■LCT・LCAを用いた環境教育促進団体 elsa <a href="http://about.me/elsa.lca">http://about.me/elsa.lca</a>
応募 担当者 連絡先	団体名： ※ご所属の企業名、自治体名、団体名をお願いします 東京都市大学等々力中学校・高等学校
	所在地： 〒 158-0082 東京都世田谷区等々力 8-10-1
	部署名： 事務室
	役職名： 事務長
	氏名： 山崎 芳彦
	TEL： 03-5962-0104 FAX： 03-3701-2197
	E-Mail： <a href="mailto:yamay@tcu-todoroki.ed.jp">yamay@tcu-todoroki.ed.jp</a>
ホームページ <a href="http://www.tcu-todoroki.ed.jp/">http://www.tcu-todoroki.ed.jp/</a>	
<p>応募団体の主たる事業（※行政の場合は、記入は不要。最大2000字入力できます。詳細は別紙添付可）</p> <p>本校は設置者である学校法人五島育英会系列の東横短期大学と武蔵工業大学が総合大学として統合したことを契機に東京都市大学等々力中学校・高等学校と校名を変更いたしました。（平成24年4月1日現在の在学生生徒数は中学校、高等学校合わせて1,166名）教育の特色としてnoblesse oblige（ノブレス・オブリージュ）を掲げ、誇り高く高潔な人間性を陶冶することに教育の基本を置いています。</p>	

## 第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

### 応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : [http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry\\_datalist.html](http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html)

#### 1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

カーボン・オフセット認証を取得済みの活動については、認証番号もあわせて記載下さい。  
「中学2年間の学びを活かす、アクションはじめの一歩プロジェクト」

【カーボン・オフセット認証 認証番号：C02-0013】

#### 2. カーボン・オフセット活動の概要

##### <カーボン・オフセットの分類>

以下の4分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

##### 【参考】

環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver.1.1)」に基づく分類

<http://www.jcs.go.jp/pdf/document/kijun.pdf>

##### <カーボン・オフセット対象・バウンダリ>

カーボン・オフセットの取組内容に関して、オフセットの対象範囲をお書きください。

【例】3①-1に記載した算定範囲と同じ or 算定範囲のうち、○○、○○の部分に関してカーボン・オフセットの対象とした

東京都市大学等々力中学校・高等学校で実施される土曜理数系プログラム「環境」の授業実施日（13日分）を対象に、敷地内の全ての校舎利用（電気・ガス・水道利用）に伴い排出されるCO<sub>2</sub>をオフセット

##### <カーボン・オフセットの取組の実施期間>

カーボン・オフセットの実施期間についてお書きください。その際、2010年1月1日以降にカーボン・オフセットを実施継続している事例または2010年1月1日以降にカーボン・オフセットを開始した事例であることが応募にあたっての必要要件となりますので、御注意ください。

【例】2009年4月1日から2009年10月31日までが取組の実施期間の場合⇒応募資格外  
2009年4月1日から2012年3月31日までが取組の実施期間の場合⇒応募資格有  
2012年3月15日以降、現在も継続中（終了時期未定）の場合 ⇒応募資格有

■カーボン・オフセットの実施期間：2011年10月～2013年2月

カーボン・オフセットの対象授業：土曜理数系プログラム「環境」授業スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中1 H.23							① (済)	② (済)		③ (済)	④ (済)	
中2 H.24	⑤ (済)	⑥ (済)	⑦ (済)	⑧ (済)		⑨ (済)	⑩ (済)	*⑪ (済)	⑫⑬	⑭	*⑮	

<授業テーマ>

- ①導入授業、②気候変動、③地球温暖化、④生物多様性、⑤食料問題とゴミ問題、⑥貧困問題と幸福感、  
 ⑦校外学習：江戸東京博物館、⑧携帯電話のライフサイクル、⑨給食システムのライフサイクル、  
 ⑩ペットボトルのLCA、⑪**まとめ授業とカーボン・オフセット**、⑫発表準備1、⑬発表準備2(クラス別)、⑭発表練習、⑮**発表会**  
 \*本オフセットは、⑦校外学習と⑭クラス別授業を除く、学年全体で受講する13回の授業を対象としています。

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

自社HP等、カーボン・オフセットの取組をウェブに掲載されている場合は、URLを記載願います。

本校WEBサイト：カーボン・オフセットページ  
<http://www.tcu-todoroki.ed.jp/co2/>

3. 1次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

カーボン・オフセットの取組内容に際して、排出量の算定についてお書きください。

(自己活動オフセット支援以外の場合)

①-1 排出量の算定方法及び算定範囲

【例】製品〇〇〇についてLCAを実施、排出量は1製品あたり〇〇〇kg

【例】イベント開催における、関係者の交通移動、会場の使用電力量、廃棄物処理に伴う排出量、算定方法については環境省の算定ガイドラインを用いた。総量〇〇トン

①-2 排出量の算定に利用したデータ種類

【例】電力使用量、ガソリン使用量、

(自己活動オフセット支援の場合)

①-3 利用者に帰属する排出対象活動

【例】利用者の1日の日常生活に伴う排出量 〇〇kg

【例】購入製品使用時に伴う利用者に帰属する排出量のうち購入後1年分にあたる、〇トン。商品販売時に顧客に提示。

① 4 利用者に対する排出量の提示方法

■排出量の算定方法及び算定範囲

本校の敷地内におけるエネルギー利用(電気・ガス・水道利用)を調査。(調査対象期間：2011年4月～2012年3月)  
 排出量は1日あたり1.7トン、対象授業13日分で総量22.1トン

■排出量の算定に利用したデータの種類

- ・平成22年度の電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等の公表数値
- ・環境省、カーボン・オフセットの対象活動から生じる温室効果ガス排出量の算定方法ガイドライン Ver. 2.0

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください（複数可）。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1.002 排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

- 節電     節水     廃棄物の減量化     省電力機器の導入     公共交通機関の利用・呼びかけ  
 その他（クールビズやウォームビズ推進による空調温度を調整）

### ③オフセットの手続き

#### <カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

使用したクレジット等の種類をお書きください。なお、異なるクレジットを併用した場合の各割合（%）についても記載してください。【例】J-VER（〇%）、CER等（△%）など

オフセット・クレジット（J-VER）： 3トン（13%）  
京都クレジット（CER）： 20トン（87%）

#### <カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

使用したクレジット等の具体的な温室効果ガス削減・吸収プロジェクト名をお書きください。

記載例： ○○地域連携による間伐促進型森林づくり事業、  
○○による木質ペレットボイラーでの温室効果ガス排出削減事業、  
○○国における風力発電プロジェクト CDM プロジェクト番号・・・

#### ■J-VER クレジット【プロジェクト番号】

- ・北海道広尾町有林における森林吸収プロジェクト～サンタの森づくりプロジェクト～【0052】
- ・岩手県有林における森林吸収量取引プロジェクト【0041】

#### ■京都クレジット（CER：ゴールドスタンダード）【プロジェクト番号】

- ・4.5 MW Biomass (low density Crop Residues) based Power Generation unit of Malavalli Power Plant Pvt Ltd.【0298】

#### <カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

取消、償却実施年月、もしくはその予定についてお書きください。

オフセットプロバイダーであるマイクライメイトジャパン株式会社へ無効化処理を代行し、2013年3月末までに完了する予定です。

## 第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

### 応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : [http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry\\_datalist.html](http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html)

#### 1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

- ①CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について具体的かつより定量的にアピールしてください。
- ②CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果をアピールしてください。

##### ■これまでの取組

本校では、環境活動として、中学1年生で実施する自然体験プログラムなどによって土や植物と接する機会を設け、畑の手入れをしています。日常的に身近な校舎では新校舎完成に伴い、人感センサーによる電気の無駄をなくすシステムが導入されており、意識的に消すことその他、消し忘れを防止が徹底されています。また、節電を呼びかけるポスターを掲示、クールビズ・ウォームビズを推進し、空調の温度設定を調整しています。現在、一括しての管理による教室別の温度差が問題となっているため、系列大学の東京都市大学環境情報学部（宿谷研究室）の協力で部屋ごとに快適な温度調整ができるよう検討を行っています。

##### ■期待した効果

日々何気なく校舎内に掲示している「節電、節水」などの標語がどのような意味をもっており、「なんのために」必要なのか、「どうして」私たちがやるのか、という根本的な部分をこのカーボン・オフセットによるCO2の見える化によって再確認できると期待しております。

##### ■その成果

本取組を通じて、カーボン・オフセットの仕組みを理解し、その活動に参画することで、その取組が地域や社会にどのように良い影響を与えているか実感し、生徒個別の削減活動を行うと同時に他地域にも貢献できる環境・社会貢献手法を身につくように、環境プログラムの中でもカーボン・オフセットの解説も行っています。今後は、授業を受講した生徒自身が率先して環境活動に取り組む環境を校内に整備していく予定です。

##### ■学校関係者の理解と外部組織との連携

本校においては生徒自身が環境授業やそれ以外から学ぶことで「自分にできること」を実践することができる環境が整っています。しかし、教員としては生徒自身の取組が地域や社会にどのように良い影響を与えているかについては、生徒自身が実感していないのではないかと感じており、改善策を模索していました。

オフセットの対象となる土曜理数系プログラムでは、様々な分野における企業のノウハウや先端技術を学べる時間としてカリキュラム化しており、中学校では学年全員が受講する土曜理数系プログラムに「環境」を創設。社会問題として見過ごすことのできない地球環境問題に対しても積極的に知見を有するべく「環境」の時間を設け、次世代を担う生徒に環境（自然と生きる）を考えさせることを念頭に置いたプログラムを実践しております。

本授業は、学内に環境の担当教員を配置、本校および系列大学の卒業生・在学生による共同プロジェクト elsa を介して系列大学などと事前の準備・計画の基、授業を実施しており、カーボン・オフセットの取組に知識のあるオフセットプロバイダーなど外部の方との接点にもなっております。

##### ■その他

今回活用するオフセット・クレジットは被災地から創出された J-VER、海外の CER を活用し、被災地域の森林保全による気候変動対策、森林整備事業による林業の活性化、基幹産業の活性化による雇用の創出や海外の途上国における生活支援の意味もあります。

震災の影に隠れてしまいがちな気候変動への対策も同時に重要な取組であり、被災地域への支援の手は時が経つに連れて一般市民の意識から薄くなってしまっていると感じています。気候変動対策と被災地支援が継続的に両立できるカーボン・オフセットは環境貢献・社会貢献の手法として考えております。当該モデル事業をきっかけに、被災地支援の要素に加え、環境貢献の姿勢を明確にすることで、本校の取組を参考に同様の支援をする学校が1校でも増えることを願っております。

## 2. カーボン・オフセットの内容

- ① 自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果などの観点も踏まえてアピールしてください。
- ② 自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについてアピールしてください

### ■取組の意義・重要性

環境対策は、組織の一部の専門部署が行い、どうしても裾野が広がらない難しさがあります。その中で、新しい試みとなるカーボン・オフセットを取り入れるために「カーボン・オフセットする側も学ぶ」という発想で取り組んでいます。学校という組織は教員と生徒で構成されており、企業に例えれば社員研修にあたる「授業」でカーボン・オフセットを実施。生徒は、取組だけでなく、取組の理解とその意義、必要性についても勉強しています。学校で学んだことを生徒は家庭で活かし、学校は地域へ情報を発信。「学校」が持つ普及のポテンシャルは、大きいと考えています。こうした事例として教育機関として初めて環境省カーボン・オフセット制度による第三者認証プログラム「カーボン・オフセット認証ラベル」を取得。先進事例として、環境教育の中で参考になるものと外部からも好評価されています。

### ■取組の継続性

本取組のようにカーボン・オフセットを実施することを教育機関が足並みを揃えることが重要であり、その波及効果は高いものと認識しております。継続的に実施することと、他校への取組の展開は elsa の協力を得ながら長期的に続けて予定にしており、「環境プログラム担当教員」を配置するなど校内の体制を整備しています。

### ■取組の対外展開

環境プログラムを担当する elsa 協力で、取組みを対外的に紹介する予定です。具体的には、高校生環境サミット（都立つばさ総合高校：11月）、エコプロダクツ（東京ビックサイト：12月）、日本LCA学会（場所未定：3月）、本校系列の東京都市大学横浜キャンパス学園祭（TCU 横浜祭：6月）に掲示することを計画しています。

さらに elsa が事務局の構成員となっている消費者環境教育研究会にて本校の取組をモデルとして他校への取組展開を図ります。主な構成メンバーは東京都立高校の教員を中心に私立中学校・高等学校の教員も参加しており、学校関係者（15校20名）と民間企業2社、民間団体6団体（一般社団法人未踏科学技術協会、グリーン購入ネットワーク、公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会、全国家庭教育協会、elsa、他）の計23組織、35名が教育現場における環境教育の実践活動の共有と普及を目的に活動しています。

他校でもカーボン・オフセットの取組が導入展開されるよう本校の取組をこの研究会を通じて実践例として各校に紹介 PR しています。本校としては、本取組から教育関係者と環境に関心のある方々に対して、カーボン・オフセットの取組とカーボン・オフセット認証ラベルを情報発信して、環境貢献・社会貢献の新たな方法として認知拡大させていくことが重要だと認識しております。

## 3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

次の①～④のいずれか（複数可）の観点での貢献性についてアピールしてください。

- ① 自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する河川・湖沼をはじめとする内水面や土壌・大気あるいは生物多様性といった自然環境への配慮や保全などの環境の面での貢献
- ② 自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する地域・社会への経済的便益や効果、第1次産業と他産業との連携促進、地域活性化や一村一品活動の拡大などの地域・社会の面での貢献
- ③ 自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する中小企業振興や産業基盤にとって重要な安定的なエネルギー供給・確保、環境と調和した市場の牽引などの産業振興の面での貢献
- ④ 自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する国際貢献等、さまざまな面での貢献

### ■本取組では、④に大きく関係をしていると考えています■

東日本大震災では関東から主に東北3県（岩手、宮城、福島）の被害が大きく報じられているなか、北海道広尾町も震災の直接的被害を受け基幹産業へ影響があり、特定被災地方公共団体に指定されています。このような地域にも数多くの被災した学校や関連施設があり、被災地の一日も早い復興は教育に携わる関係者の願いでもあります。

#### 4. 普及啓発の創意工夫とその成果

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組について第三者である市民に伝え、理解者の裾野を広げ巻き込み、「自分ごと化する」ために行った創意工夫（イベントの開催やツールの開発等）についてアピールしてください。
- ②人々や社会に与えた影響（行動様式や考え方の変化）について、実際に得られた反響も踏まえてその成果をアピールしてください。

##### ■オフセットする側も学ぶ■

本校では、カリキュラムの一部として創設した環境授業を対象にカーボン・オフセットし、授業の中でカーボン・オフセットの定義、CO<sub>2</sub>排出量の計算、オフセットの意義を生徒が理解できるよう環境プログラムの中に組み込んでいます。また、生徒だけでなく環境の専門知識を有する授業を担当する elsa の協力で教員も知識を得ています。

##### ■生徒から家庭へ、学校から地域へ■

本校 WEB サイトでの特設ページを開設し、在学生・卒業生・保護者・関係者へ情報を発信しています。系列大学に環境専門学部のある本校ならではの周知方法ではありますが、多くの若者が集まる大学内へも発信しています。また、大学からのプレスリリースとすることで学校の内部関係者のみならず、環境に関連する方々、それ以外の方々にも取組を周知するよう努めています。

・大学 WEB サイト <http://www.yc.tcu.ac.jp/>

##### ■環境専門家との連携■

同大学の伊坪研究室（共同プロジェクト実施者）は、環境負荷の見える化（ライフサイクルアセスメント：LCA）の分野で最先端の研究をする研究室です。環境に関心の高い企業や団体、関係者が注目する研究室の WEB サイトからもプレスリリースを行い、取組の周知を行いました。

・伊坪研究室 WEB サイト <http://www.yc.tcu.ac.jp/~itsubo-lab/>

##### ■継続的な取組のために（本校の取組）■

学園祭のパンフレットにオフセットプロバイダーのマイクライメイトジャパンの協力で、カーボン・オフセットの説明を記載しました。毎年、他校の生徒や本校を受験希望する小学生とその保護者も多く来場するため、将来本校で勉強したいと思う要因のひとつにこの「環境の取組」がきっかけとなればと期待しています。環境に興味を持つ生徒を多く集めることも取組の継続性からは重要であると考えています。

本取組のようにカーボン・オフセットを実施することを教育機関が足並みを揃えることが重要であり、その波及効果は高いものと認識しております。継続的に実施することと、他校への取組の展開は elsa の協力を得ながら長期的に続けていくために「環境プログラム担当教員」を配置するなど校内の体制を整備しています。

##### ■さらなる普及へ■

このような小規模な取組みでも、本校の事例をきっかけに、カーボン・オフセットを実施する学校が増えればと考えています。例えば、文部科学省の平成 23 年度「学校基本調査」によれば、全国には高等学校 5,060 校（生徒数：約 335 万人）、中学校 10,751 校（生徒数：約 358 万人）があり、全国の中学校・高校の約 1%がカーボン・オフセットした場合でさえ、約 315t-CO<sub>2</sub>のオフセット規模になります。（1校あたり環境授業 1 回実施により排出する CO<sub>2</sub> 排出量を 1 日約 2t-CO<sub>2</sub> と仮定して計算）そのため、本取組が展開の足掛りになればと考えております。

本オフセットの取組の対象となる発表会（2 月）には環境分野の専門家や企業の環境担当者を 5 社からコメンテーターとして参加して頂く予定です。将来的には、系列大学 OB でコメンテーターを構成（内部手配）できるような段取りを進めているところです。（昨年度実績計 4 団体：独立行政法人産業技術総合研究所、三信化工株式会社、株式会社チクマ、チェンジ・ザ・ドリームファシリテーター）本校の取組と企業の取組などを踏まえて環境対策について、アドバイスをいただく場であり、貴重な時間として活用しています。

その他、elsa 協力で、取組みを対外的に紹介する予定です。具体的に、高校生環境サミット（都立つばさ総合高校：11 月）、エコプロダクツ（東京ビックサイト：12 月）、日本 LCA 学会（場所未定：3 月）、本校系列の東京都市大学横浜キャンパス学園祭（TCU 横浜祭：6 月）に掲示することを計画しています。

さらに elsa が事務局の構成員となっている消費者環境教育研究会にて本校の取組をモデルとして他校への取組展開を図ります。主な構成メンバーは東京都立高校の教員を中心に私立中学校・高等学校の教員も参加しており、学校関係者（15 校 20 名）と民間企業 2 社、民間団体 6 団体（一般社団法人未踏科学技術協会、グリーン購入ネットワーク、公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会、全国家庭教育協会、elsa、他）の計 23 組織、35 名が教育現場における環境教育の実践活動の共有と普及を目的に活動しています。

そして、他校でもカーボン・オフセットの取組が導入展開されるよう本校の取組をこの研究会を通じて実践例として各校に紹介 PR しています。本校としては、本取組から教育関係者と環境に関心のある方々に対して、カーボン・オフセットの取組とカーボン・オフセット認証ラベルを情報発信して、環境貢献・社会貢献の新たな方法として認知拡大させていくことが重要だと認識しております。

## 5. ストーリー性

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組についての「魅力」「面白さ」「ユニークさ」などをアピールしてください。
- ②こうした「魅力」「面白さ」「ユニークさ」について、それを第三者である市民に伝えるために行った創意工夫についてアピールしてください。また、低炭素社会の実現にどのように貢献しているのか、アピールしてください。

### ■取組の魅力・面白さ・ユニークさ■

これまで、自己活動や会議・イベントのオフセットは数多く行われています。しかしながら、学校が授業を対象にオフセットし、さらに教育プログラムに組み込む事例はこれまでにありません。特に、今回は環境省のカーボン・オフセット認証を取得した教育機関初の事例となります。カーボン・オフセットの定義からはじまり、今後は、カーボン・オフセットを継続的に取り組めるよう、授業を超えて、東京都市大グループ全体の取組となるよう施策を検討しています。

### ■第三者へ伝えるための創意工夫と計画■

東京都市大グループで環境を学んだ人材が環境を教えるプログラムを実施、その熱意と情熱で関係各所へ取組を展開しています。本プロジェクトが実現したのも、本校卒業生及び系列大学の卒業生と在学生と連携した共同プロジェクト「環境プログラム」からはじまりました。特に、生徒だけでなく、教員も環境の講座を受けることが新鮮で、各教科と相互に補完できるよう、さらに工夫を行っています。生徒への理解を促し、生徒から家庭へ、家庭から地域へとつながることを期待しています。

また、本校の環境プログラムはカリキュラムに組み込まれていることが大きな特徴であり、先進的な事例として環境教育を勉強する他校の教員が見学に来校することもあります。このような取組を対外的に発信する機会として、elsa の協力を得て、高校生環境サミット（都立つばさ総合高校：11月）、エコプロダクツ（東京ビックサイト：12月）、日本 LCA 学会（立命館大学 びわこ・くさつキャンパス：3月）、本校系列の東京都市大学横浜キャンパス学園祭（TCU 横浜祭：2013年6月）で学校関係者や環境に取組む関係者に取組を紹介することを計画しています。

### ■低炭素社会の実現への貢献

今回のオフセットは23トン（CER：20トン、J-VER：3トン）であり、校舎から排出する約13日分の排出量をオフセットしています。これらは、年間の排出量からみたらわずかな量かもしれませんが、本取組では、環境への行動を起こす一歩として位置付けており、この小さな取組を様々な活動に適用して応用してもらいたいと願っております。学んだことを次へ活かすことが教育の中でカーボン・オフセットを行う大きな意味であると考えています。今後、本取組をきっかけとして低炭素社会を実現する人材を育てることを目指していきます。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDF の場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG 等）お送りください。

## 第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局

（担当：入山、井上）

〒東京都港区芝公園3-1-8 芝公園アネックス7階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail [award@carbonoffset-network.jp](mailto:award@carbonoffset-network.jp)